

滋賀県における 幼保小の架け橋プログラム事業 実施状況について

滋賀県湖南市立石部南小学校
教頭 村地 和代

滋賀県の架け橋プログラム以前の幼保小連携・接続

○県幼保小接続事業「学びに向かう力推進（育み）事業」（H.27～）

- ・令和2年度からは、指定の小学校に加配教員を配置し、加配教員が保育に参加することにより小学校側の幼保小接続への意識改革を図り、架け橋期カリキュラムの検証・改善。（2年間指定）

- ▲研究終了後の継続。取組が「点」に留まり「面」として広がりにくい
- ▲研究指定は公立園のみ。現場の実態と乖離。

○行政の仕組み

- ▲施設類型ごとに担当課が分かれ、企画・運営を共同で行う体制は整っていない。
- ▲持続可能な幼保小接続の仕組みづくりに課題。
- ▲幼児教育センターの設置なし。

○接続カリキュラムについて

- ▲園と小が別個で策定しており、協働して作成していない。
- ▲年度の途中で見直すことはほぼない。
- ▲“小学校に慣れる”ためのカリキュラムになっている。



チャンスを活かす！



令和4（2022）年度～

文部科学省「幼保小の架け橋プログラム事業」委託

施設類型の違いを越えた幼保小接続の研究始動！

① 仕組みづくり

国委託事業と県幼保小接続事業「学びに向かう力推進事業」との連携

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	A小学校区 (公立小・公立幼)		彦根市立城東小学校区 (国委託事業と兼ねる)			
2	B小学校区 (公立小・公立認こ)		F小学校区 (公立小・公立幼・ 公立保・私立保)		※R6～	
3	C小学校区 (公立小・公立幼)		G小学校区 (公立小・公立認こ)		※R6～	
4		D小学校区 (公立小・公立幼)		※R5～		※R7～
5		E小学校区 (公立小・公立認こ)		※R5～		※R7～

◆県内5地域
指定校区による実践研究
(2年間指定)

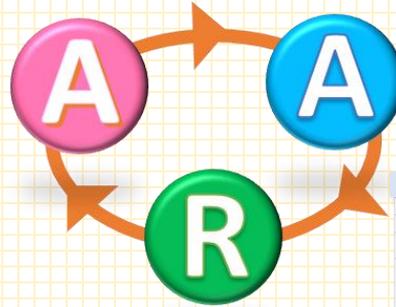
- ・2地域は継続
- ・新規3地域を選考

◆新規3地域のうち、
1地域を兼ねる

◆令和5年、6年、7年の
新規地域へ研究の成果
を直接波及させる

チャンスを活かす！

② 滋賀県版「架け橋期のカリキュラム枠」作成



共通シート

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート (案) 【 小学校区】校名 ()

時期	5歳児			第1学年		
	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	園と小が協働で策定					
幼児期の終わりにまで見守りたい姿	A Anticipation 見通しをもつ			A Anticipation 見通しをもつ		
と大切にしたいこと	A Anticipation 次の期の見通しをもつ			A Anticipation 次の期の見通しをもつ		
単元・環境・先生・ワーク	R Reconstruction 実践の振り返りを踏まえた デザインの見直し・再構成			R Reconstruction 実践の振り返りを踏まえた デザインの見直し・再構成		
主な教育課程・予想される活動						
振り返り						

実践記録

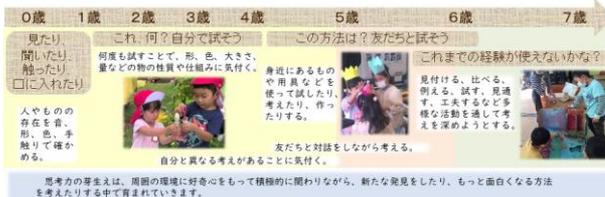
滋賀県版「架け橋期カリキュラム」実践記録 (案) 【 小学校区】園名 ()

時期	5歳児			第1学年		
	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	子どもの学びの姿を描き出す					
幼児期の終わりにまで見守りたい姿	A Action やってみる			R Reflection ふりかえる		
と大切にしたいこと	A Action やってみる			R Reflection ふりかえる		
単元・環境・先生・ワーク	A Action やってみる			R Reflection ふりかえる		
主な教育課程・予想される活動						
振り返り						

「幼保小の架け橋プログラム事業」1年目 ～始動・暗中模索～

【研究1年目】

- 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート
- 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」実践記録
- 0歳～7歳までの10の姿における発達や学びのプロセス



取組を進める中で、文言の見直しをしてもよいかも

【滋賀県版「架け橋期カリキュラム」枠を活用し、幼保小が協働で作成】

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート		【城東小学校区】校園名 ()					
		5歳児			第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	やってみてきたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	自分でできそうなことを見つけてためしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。	経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ。	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる。	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。	新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。	お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。	ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。
大切にしたいこと	環境	子どもが手に取り、自らやってみたい、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね	友だち同士の関わり(異年齢交流を含む)が活性化する場づくり	期待感いっぱい学びの環境	広がる つながる 学びの環境	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲
	先生の関わり	好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり	共感的な受け止めと関わり	個の思いを認め、つなげる	入学までの体験を把握し、触れたい、すぐ試したいになる材料・用具の配置	広がりつながりを生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出す関わり
	キーワード	やってみたい、もっとやりたい	様々な経験の積み重ね	友だちとつながる、深まる	知ってる！ やりたい！	もっと もっと やりたい！	できたよ！もっとできるよ！
主な教育課程・予想される活動		各園・小学校において記入					
振り返り							



抽象度の高いものだとは何を指しているのかばやけてしまう。

みんなの願いを具体的な子どもの姿で描き出すには？

壁① リズムとペースの違い

壁② 理想とする保育・授業の違い

○それぞれの一步を踏み出す体制づくり
○互いを認め合い取組のよさを取り入れる「受容」の姿勢

「幼保小の架け橋プログラム事業」2年目 ～受容から協同、そして協働へ～

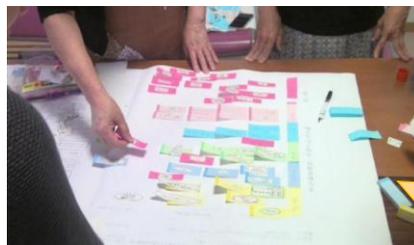
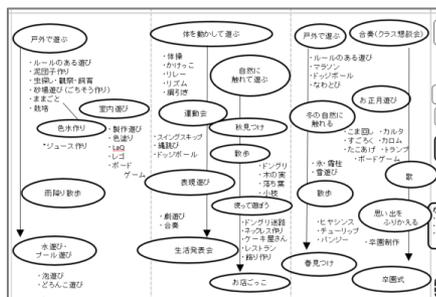
協同でカリキュラムを見直す

- 作成した「架け橋期カリキュラム」の見直し
- 複数園の教育課程を一つにすることで園と小学校の教育課程のつながりを意識



① 各園の教育課程を見比べ、共通する活動を切り抜き、配置・整理

「活動の言葉は違うけど、やっていることは、どの園も一緒ですね」



② 5領域で整理

「活動をバラバラで貼ってるなあ」「付箋で、5領域がわかるように、色分けしたらどう？」



③ 行事の位置付けを再考

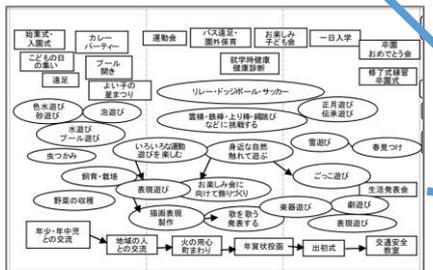
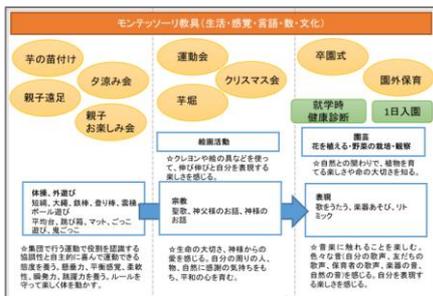
「この活動(5領域内のもの)が、行事につながるよね」「行事は、行事だけでまとめていたけど、5領域の中に入れよう！」



④ 小学校とのつながりを考える

「この活動、小学校の活動とつながりそう」「今の描き方だったらつながらない、小学校も変えたいね」

園のカリキュラムが、複数になる。園と小学校とのつながりが見えにくい…。



「幼保小の架け橋プログラム事業」2年目 ～受容から協同、そして協働へ～

保育・授業改善に向け「協働」

○「滋賀県版学びのサイクルデザインシート（通称：ぐるぐるシート）」の開発

- ・ 幼保小接続で目指すことは、保育・授業改善
- ・ 子どもを主体とした保育・授業を先生が計画段階から意識し実践するために開発
- ・ “子ども主体の学びのサイクル”を幼児教育でも小学校教育でも意識することが保育・授業改善の肝

1年目成果物



幼保小架け橋ガイドブック掲載

学びのサイクルを 意識しましょう

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児の自発的な活動としての遊びを通して、育まれていきます。そして、子どもの活動や遊びの様子には、いくつもの10の姿が絡まり合って現れます。

幼児が、心が動く様々なもの・人・こととの出会いの中で、主体的に遊びを繰り返し、充実感・満足感を味わい、また、心を動かすという学びを展開できるよう「学びのサイクル」を意識しながら指導することが大切です。

園は指導を行う際に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮

影が映る！劇をしたらどうかかな？

遊びの中で総合的に育む

映画館をしたいな。段ボールで囲おう。

ポップコーンも必要。何味にしようかな。

大きいやぎは二ついるよ。

「3匹のやぎのからがらどん」でペーパーサートをつくろう。

ペーパーサートをくっつけると影が濃くなった。

マイクを使ったらどう？声が届いた！

演じてみよう。声が観客まで届かない。

次は自分たちで話をつくろう。

小学校は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫

各教科等の特質に応じて系統的に学ぶ

学校のはてなを見つけない！

探検の前には、みんなて約束も決めよう。(道徳科)

2回目の探検。インタビューもできたよ。

1回目の探検！友だちとはぐれた…でも、もっと知りたい！

友だちと一緒に、次の計画をしよう。

探検で見つけたものを地図に描きたいな！（図画工作科）

見つけたことを伝えたい！（国語科）

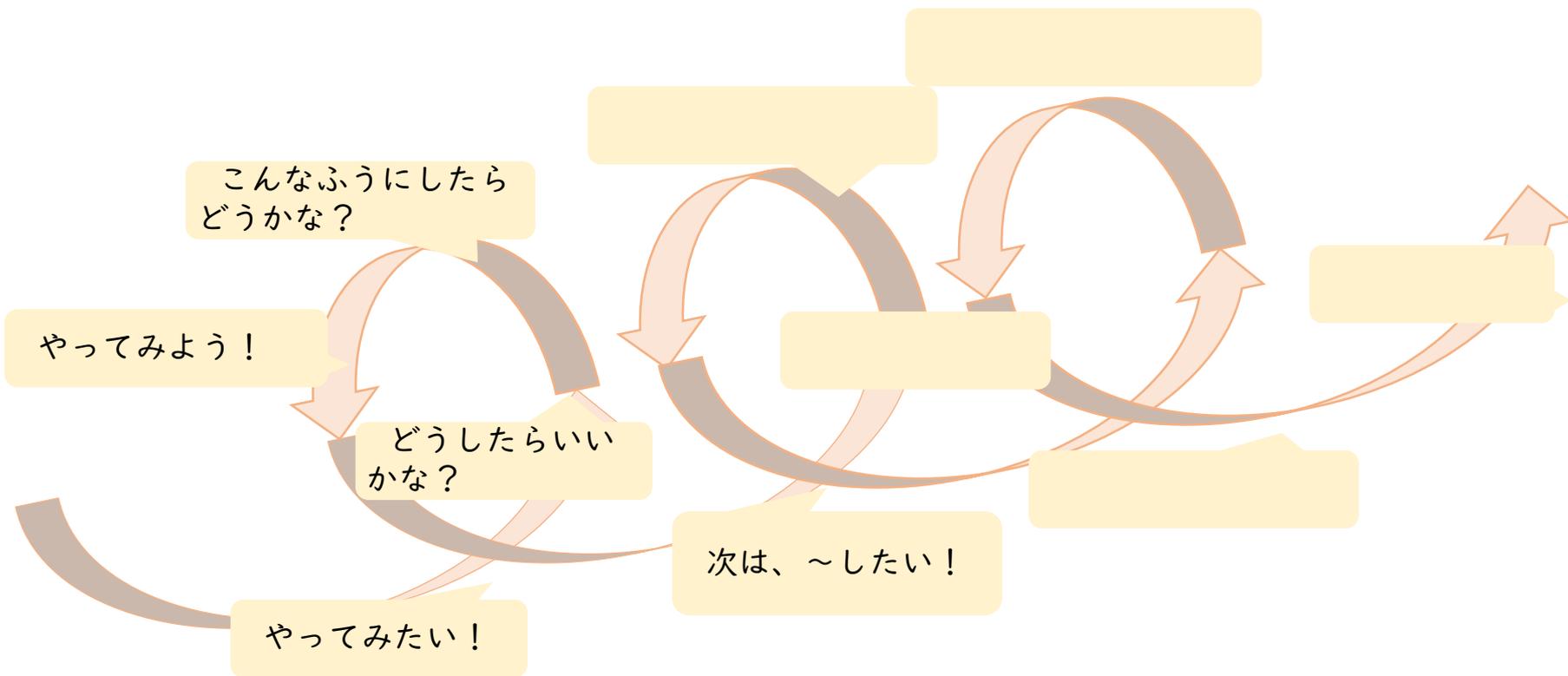
皆で楽しく探検できた！新たな「？」も生まれたぞ。

次のページからは、0歳から7歳までの発達や学びのプロセスを示しています。これまでどのような力が育まれてきたのかをつかみ、一人ひとりの発達に必要な体験が得られるような状況をつくり、必要な援助を行ったりすることができるように、御活用ください。

園は指導を行う際に、「幼
児期の終わりまでに育て
ほしい姿」を考慮

【環境の工夫】

【先生の関わり】



滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

◎自分なりにイメージを膨らませながら自由に描いたり、作ったりすることができるように様々な道具や材料を用意し環境を整えておく。
☆絵本やエプロンシアター、紙芝居など、様々な形でお話を楽しめるようにする。

●好きな遊びの時間に絵本作りをする子、お面を作っている子など一つの絵本から遊びを広げていく姿が見られた。

●「○○ちゃんはどうなことをかな」「○○くんは何を作っているんだろう」と個々で楽しんでいる遊びにも興味を持てるように保育士が関わっていけると、遊びが広がっていったのではないかな。

お客さんと呼んだら
もっと面白そう♪

絵本の世界から
遊びに繋がる経験

○○ちゃん、
本物のニワトリみたい！
ペープサートでの
お話遊び

泥棒を驚かせるシーンを
やってみたい！
体を動かしてなりきり遊び

ブレメンごっこ

今日はもっと大きな声で
セリフを言いたいな。

つきぐみの
劇遊びへ

発表会

たくさんのお客さんが
いて緊張するなあ・・・

泥棒の家やごちそうも
作ってみたい！何を使って
作ったらいかな？

マルチパネで
泥棒の家を作ったよ♪

ネコってこんな感じ？

私はイヌ役がしたいな

◎お面を多めに用意しておき、興味を持った時に遊びに参加できるようにする。

●「もっとこんなものがあればいいのにな」「あんなことしてみたい」と友達や保育者に自分のイメージを伝えながら遊ぶ姿が多くみられるようになってきた。

園は指導を行う際に、「**幼児期の終わりまでに育てほしい姿**」を考慮

☆発表会までの日を子どもと一緒にカウントダウンしたり、クラスでの目標を考えたりしながら当日に向けて気持ちを高めていけるように関わっていく。

●発表会が近づいていくにつれ、「もっと大きい声でお客さんに聞こえるように話す」「まっすぐ立って歌って方がかっこいい」と見てくれるお客さんのことを考えながら、目標を持って劇遊びに取り組む姿が見られた。

◎保育室の一角にお話遊びのコーナーを用意し、自由に表現したり、お話に触れたりすることを楽しめるようにする。
☆クラスで活動する時間に子どもがペープサートを使ってお話する機会を作るなど、友達がしている遊びやブレメンのお話に興味を持てるように機会を設けていく。

●自分たちで役割分担をして配役を決めたり、役を演じる子とお客さんをする子で分かれて遊びを楽しむ姿が見られた。

滋賀県版 学びのサイクル 実践シート

○夏休みや登下校中に虫を見つけた児童の話を書く場を設け、「虫をさがしたい」「見たい」という思いを高められるようにする。

○虫の本や、秋の葉っぱの本などを学級文庫に用意する。

○夏の虫探しを想起し、虫のいそうな場所を予想したり活動したい場所を見通したりする。

○1人1人が行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。

○虫探しの後は、板書で校庭の配置図を簡単に示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかななどを尋ね、夏と秋の虫探しで「同じこと」「違うこと」を挙げ、比べることで季節の違いに気付けるようにする。

○活動後、休み時間にも各自で虫探しに行ってよいことにする。

⑤「ダンゴムシは秋にもいたよ。」
「夏にはいなかったセミがいたよ。」
「バッタがいたよ。草を入れておこう。」
「アオスジアゲハがいた！捕まえるときは、そーっとね。」
「〇〇さん、捕まえるの上手！」



⑥「たくさん見つけたね。」
「今日の“ピカイチさん”をプリントにかこう。」
友達の“ピカイチさん”を聞く。
↓
「いろんな虫がいるな。」
「いっぱいいるやん。」

⑦「うまく捕まえられなかったよ。」
「〇〇さん、捕まえるのが上手だね。」
「虫とり名人だね！」
「コツがあるのかな。」
「捕まえ方を聞いてみよう。」

①「夏休みの宿題で、虫図鑑を作ったよ。」
「ほくは、セミの抜け殻をたくさん見つけたよ。」
「先生がセミの抜け殻をもってきてくれたよ。」
「学校に行く途中、トンボが飛んでいたよ。」
「他にもいろんな虫がいそうだね。」

⑧「もっと違う場所で虫探ししたいな。」
「山とか行ききたいな」
「かわべ生き物の森！」
「荒神山！」
「公園は？」
「公園なら、すぐに行けるよ。」

* 授業時間だけでは、捕まえられなかった子ども、休み時間にも虫探しをしてもよいことにしたこと、「～したい」気持ちと活動が継続した。
* 虫を見つけた場所を校庭マップで表したことから、「自分もその場所に見つけに行ってみよう」という意欲につながった。

○児童の言葉を基に、約束を確認する。
○見つけた虫、秋の物について、何か例えたり触れたりなどして特徴を捉えている児童に共感し、対話しながら児童なりの気付きを引き出す。
○幼児期やこれまでの経験を基に、自然の様子や特徴について気付いたり予想したりしている児童の発言を認め、全体へと広げていく。
○虫探しの後は、公園の平面図を示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかを尋ね、校庭での虫探しと比べて、どんなことが違っていたか気付けるようにする。また、生き物を見つけた場所に注目し、校庭との共通点も見つけていけるようにする。

④「一人一人行くなら約束を考えておこう。」
「虫をとるなら、虫とり網や、虫かごがいるね！」

⑫「公園にもバッタはいたね。」
「草むらが多いから、たくさんいるね。」
「きれいな葉っぱを見つけたよ。」
「木の実や枝もひろったよ。」

③「どこを探すといかないか。」
「一人一人行きたいところに行こう。」
「夏よりもっと時間がほしいな。」
「秋だからトンボがいるかな。」

⑩「高い所にいる虫も捕まえないな。」
「伸びる長い網を持ってこよう。」
「どんぐりや葉っぱを入れる袋もいるね。」
「虫かごは肩から下げられるものだと動きやすいね。」

⑨「近くの公園には、どんな虫がいるのかな。みんなで行きたいな。」

⑪「公園の“ピカイチさん”をプリントにかこう。」
友達の“ピカイチさん”を聞く。
↓
校庭と比べてどうかな。

⑬「一人一人行くなら約束を考えておこう。」
「虫をとるなら、虫とり網や、虫かごがいるね！」

⑬「公園にもバッタはいたね。」
「草むらが多いから、たくさんいるね。」
「きれいな葉っぱを見つけたよ。」
「木の実や枝もひろったよ。」

* 公園から帰った後、「秋のおたからマップ」を作成したことで、学校での虫探しと比較し、「公園の方が虫の種類が多い」「どんぐりや木の実、落ち葉がいっぱいある」などを発見することができた。虫だけでなく、葉っぱやどんぐりなどの秋の物へ、関心が広がった。

○秋の草花や樹木、虫などの動植物の観察をしたり、どんぐり工作体験をしたりする校外学習（AP）を計画し、事前学習で施設の写真を見て、どんなことができそうか予想する。
○どんぐり工作で作ったものを家族へのお土産として持ち帰り、「もっと作りたない」「どんぐりで〇〇を作りたいな。」という意欲が高まるようにする。

⑬「虫だけでなく、どんぐりや葉っぱも見つけたよ。」
「どんぐり工作、楽しかったね。」
「自分でも作ってみたいな。」

⑬「森のクイズがあるみたい」
「広いところだから、虫もいっぱいいるはず。」
「どんぐりや葉っぱも拾ってこよう。」

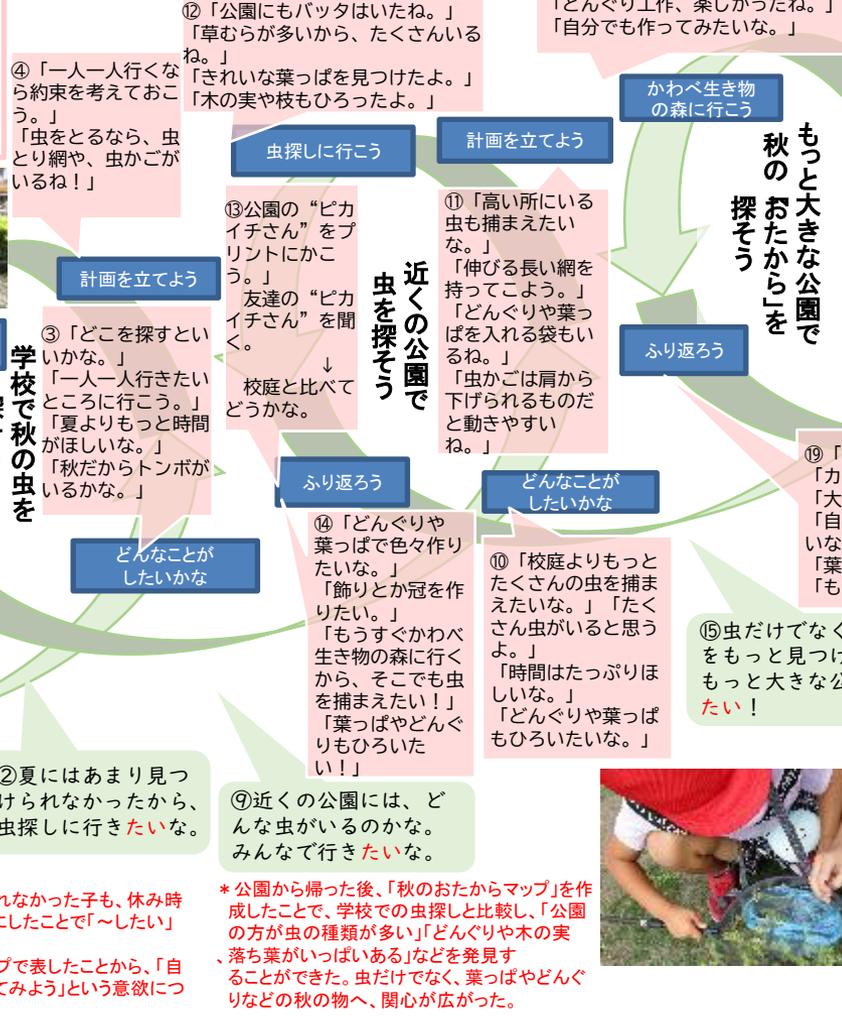
⑬「かわべ生き物の森ってどんなところ？」
「何があるのかな。」
「虫を捕まえないな。」
「秋の物を見つけたい。」

⑬「〇〇遊びをして、楽しかったね！」
「カナヘビがたくさんいたよ！」
「大きなアリもいたよ。」
「自分でアクセサリやどんぐりゴマを作りたいな。」
「葉っぱを集めたら、スカートに見えたよ。」
「もっといろんなものを作りたい。」

⑬「〇〇遊びをして、楽しかったね！」
「カナヘビがたくさんいたよ！」
「大きなアリもいたよ。」
「自分でアクセサリやどんぐりゴマを作りたいな。」
「葉っぱを集めたら、スカートに見えたよ。」
「もっといろんなものを作りたい。」



* 子ども達の発した「おたから」という言葉を大切に、素敵なものを見つけたり、集めたり作ったりするワクワク感に繋げていった。
* AP(校外学習)では、限られた数のどんぐりの工作であったため、学校に戻ってから、存分に遊べるよう、材料をたくさん集め準備を進めた。



幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



登校した児童から、隣の生活科室で好きな遊びをします。
自然とつながり合う子どもたち。

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



黒板の表示を見て、動きます。
園で育まれた力を生かして、自分たちで片付けます。

⑥にはきょうしつに
かえてきてね♡

⑤になったら
おかたづけ

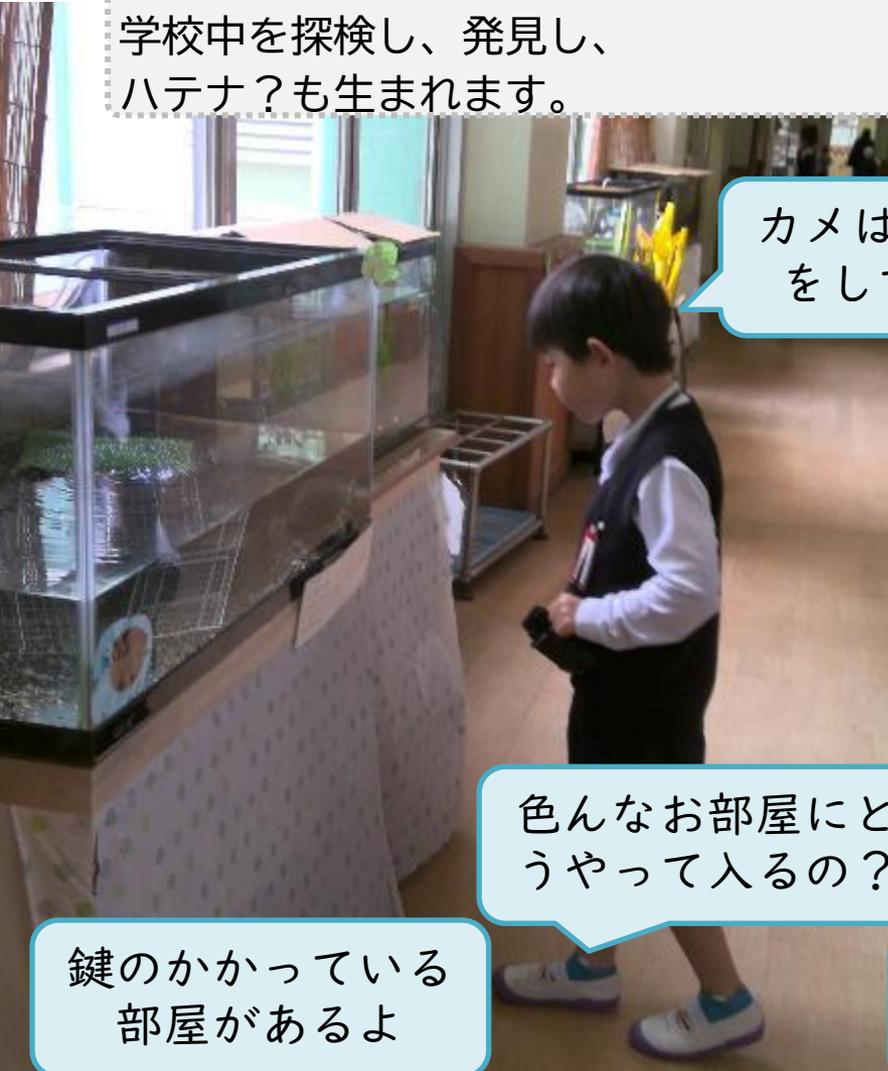


みんなまで
いなかよく
あんせん
すしてね

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



子どもたちのわくわくは止まりません。
学校中を探検し、発見し、
ハテナ?も生まれます。



カメは誰がお世話をしているの？

色んなお部屋にどうやって入るの？

鍵のかかっている部屋があるよ

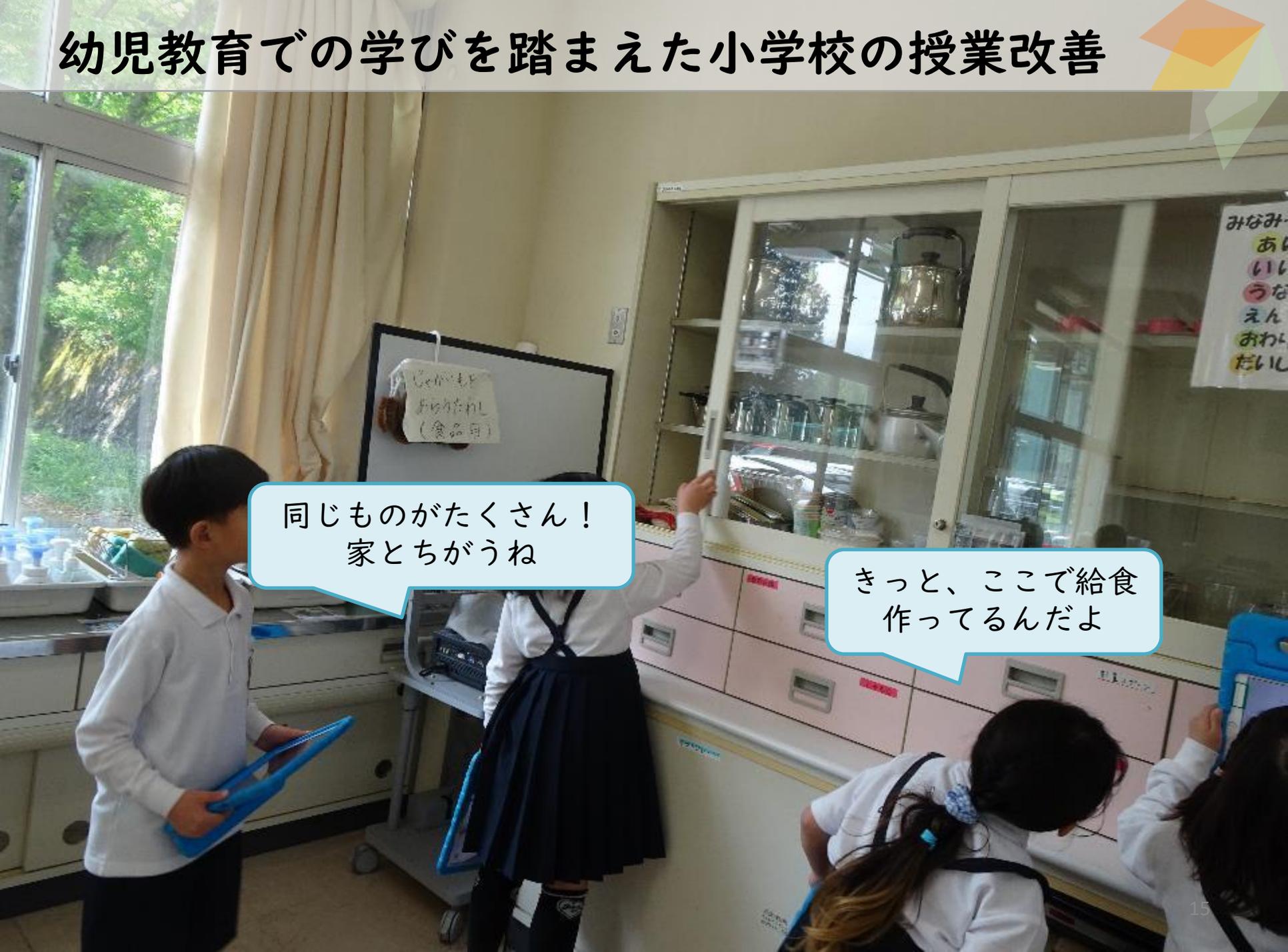
国語で挨拶の仕方を勉強したよ？



お邪魔しますじゃなくて、失礼しますって言うんだよ

国語:なんていおうかな

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



同じものがたくさん！
家とちがうね

きっと、ここで給食
作ってるんだよ

みなみっこ
おうえんだん
のみなさん

み

な

み

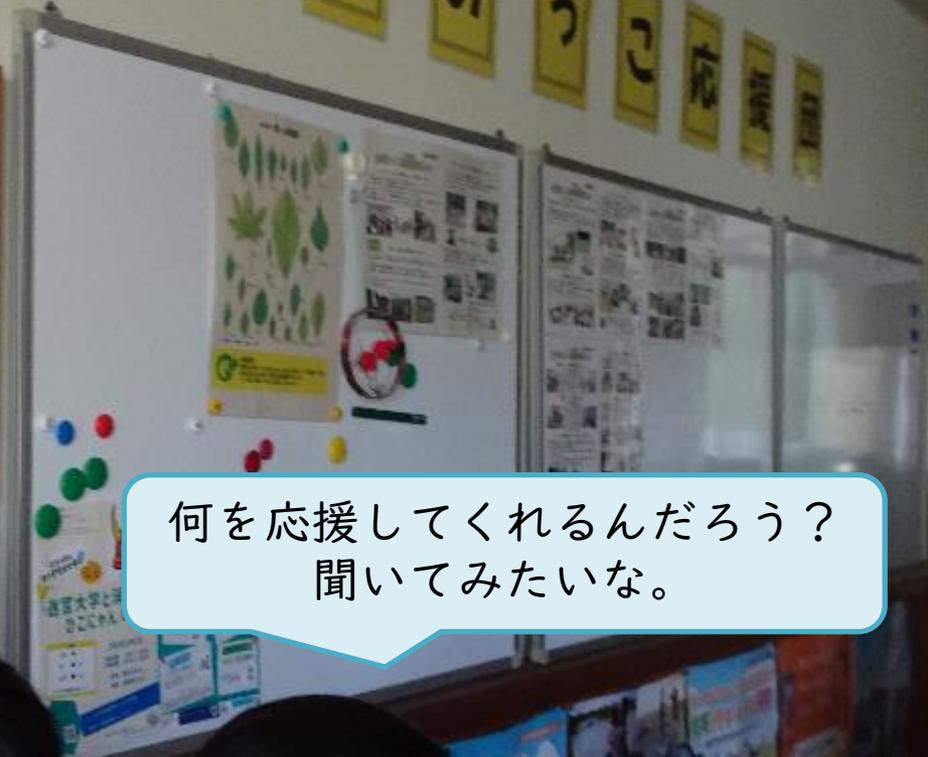
っ

こ

応

援

員



何を応援してくれるんだろう？
聞いてみたいな。

「みなみっこおうえんだん
のみなさん」だって



2025年
関西万博

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



質問してきたよ。
聞いて聞いて！

たいくかん

わあるどるうむ



がいこくっぽいもの
があったよ。どんな
おんきょうをしている
のかな。

こみゆにているうむ



1の1とは
ちがうおへび
こもかぎを
するのかな？

にしおせんせい
が
おしえてくれたよ。



がいこくからみなみ
しょうにきたともだちが
みんなともしっかり
なるために、にほんご
のおんきょうをがんば
るきょうしつだよ。

がっこうたんけんでみつけたよ



なまえ

ぞうしつ



かみ

コンピューター



まほう



パソコンつえ

しんじゆかお

おはく



ばん



はな



りゆう

おん

おん



あおだい

がっこうたんけんでみつけたよ

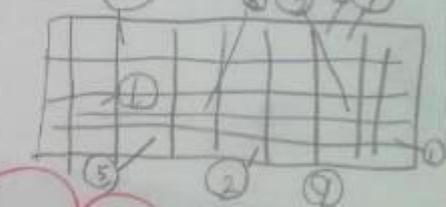
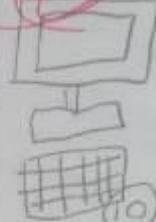


なまえ

ぞうしつ



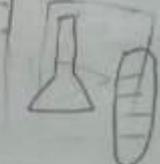
コンピューター



おはく



りゆう



全部の教室の名前がわかったよ
園の先生にも伝えたいな。

⑤ がつ ⑮ にち

6年生がわたしたちにクイズを
出してくれたよ

ひんとを かんがえよう

- ① かいにあります
- ② ベッドがあります
- ③ めのけんさができます



うらに こたえの えを がこう。

ぼくたちもクイズにしたら
いいんじゃない？

⑤ がつ ⑮ にち

ひんとを かんがえよう

- ・ かいにあります。
- ・ おりょうりをするどうぐがあります。
- ・ かってに はいってはいけません。



うらに こたえの えを がこう。

国語:ぶんをつくろう



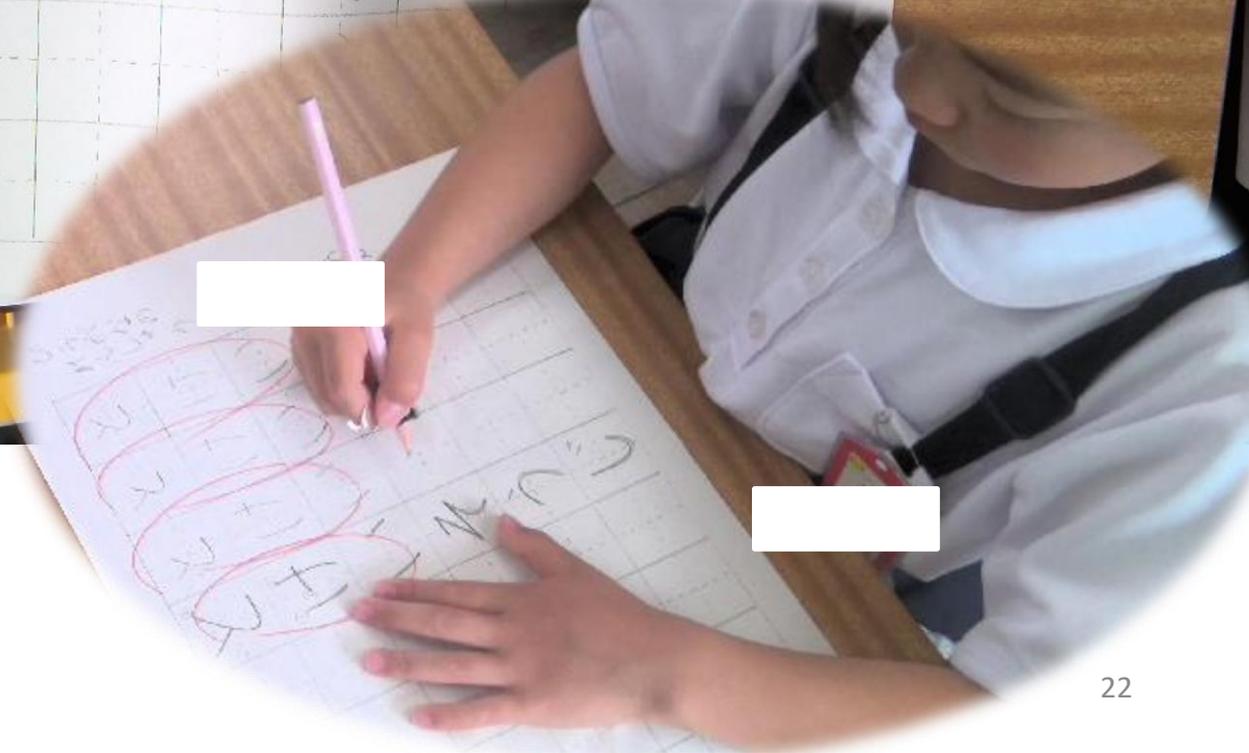
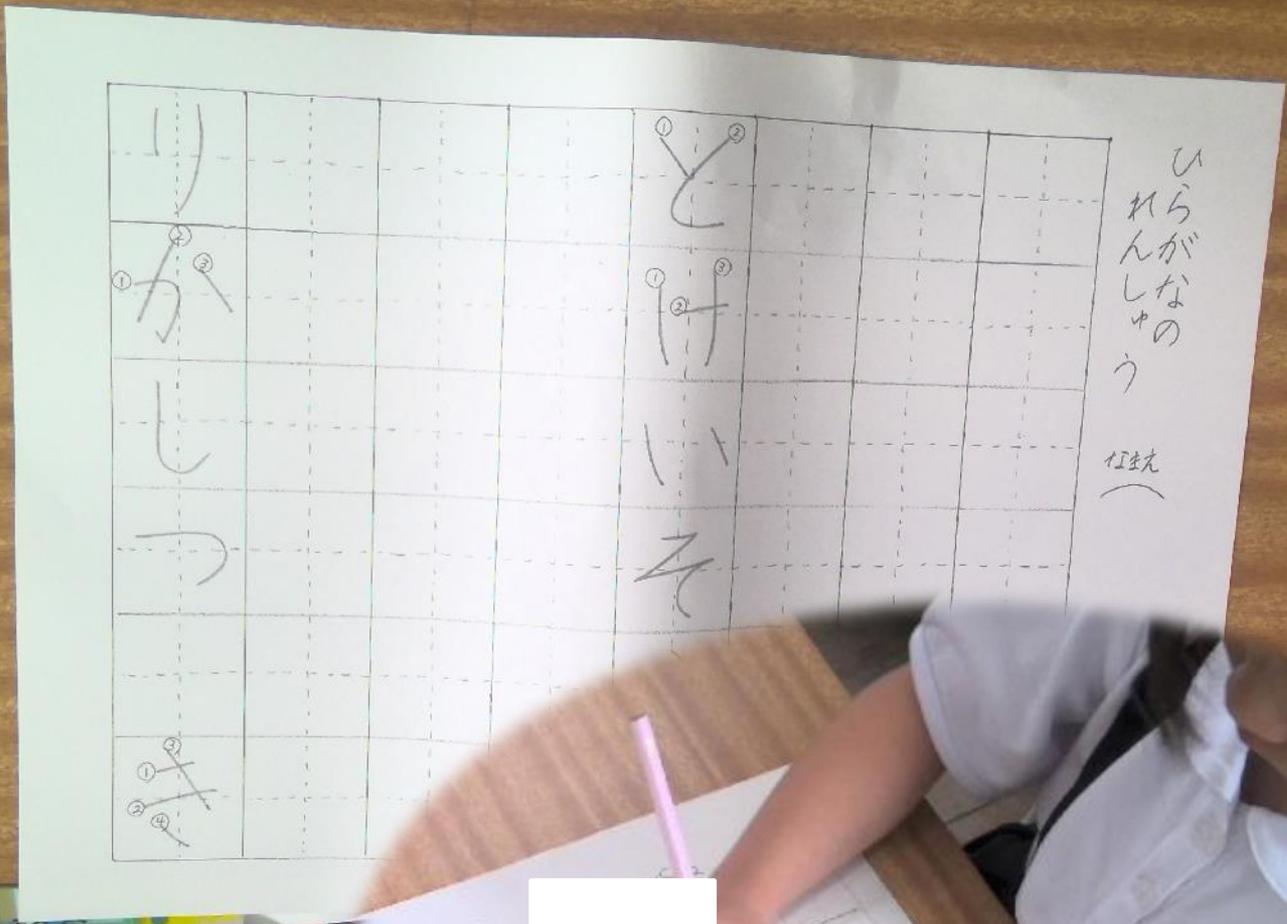
写真を見せながら、見たこと、
聞いたことを豊かに伝えます。

国語：こんなものみつけたよ

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



国語：ことばをさがそう



合科的指導

「生活科を核とした
大単元」実践例

歌う・身体
表現

もっとなかよ
くなりたいな

話す

学校のひみ
つを話した
い!

みんなで
たのしく
(音)

こんなもの
みつけたよ
(国)

みつけたもの
をかこう!

数える
並べる
比べる

10までのかず
(算)

がっこうだいすき
(生活科)

えんぴつをもって
かいてみよう
(国)

〇まいに
ちになったよ!

よくきいて
はなそう
(国)

どんどんかくのは
たのしいな (図)

書く

学校クイズ
をしたい!

描く

見つけたもの
を描こう!

自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進める

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善



A large sheet of paper pinned to a bulletin board, featuring a central flowchart and numerous handwritten notes, photos, and sticky notes. The flowchart is organized into a grid-like structure with various boxes and connecting lines, representing a curriculum or lesson plan. The notes are written in Japanese and often include small photographs of people or classroom scenes.

Central Flowchart Elements:

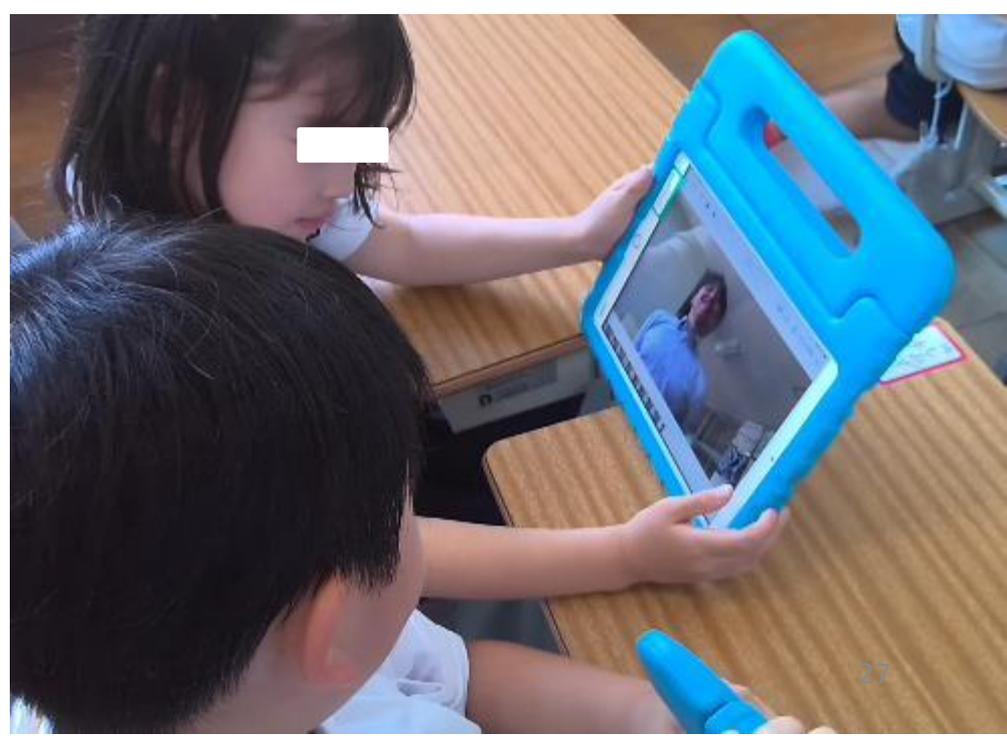
- IF** (top left)
- 1F** (middle left)
- 2F** (middle right)
- 3F** (bottom right)
- 4F** (bottom right)

Key Notes and Photos:

- Top Left:** "が、このいきがわりにあんぜんをまもってくださるすべし" (We must ensure safety in this change.)
- Top Center:** "5-6ねんせいになったら お礼をするおんきょうが はじまるんだって。たのしみだね。" (When you're 5-6 years old, you'll start saying thank you to your teachers. That's exciting.)
- Top Right:** "いほもうおなべは つかえていません。10ねんせいまでは くらこうそきょうしやくを つくっていたので、まいいち つかえていたよ。" (I haven't used a stove yet. Until 10 years old, we used a school stove, so I was used to it.)
- Middle Left:** "お礼につかうものがたくさん あったよ。くさんくしてみたいな。" (I had a lot of things to use for thank you. I want to try many.)
- Middle Right:** "はいせんしつ はんどうつきのおおきい おなべがいくつもあつたよ。 でもいいとががぶささてい てつかっているのかな...?!" (In the dining room, there were many big stoves. But are they really being used because they're so good...?)
- Bottom Left:** "おおいづえやペンキ ふでなどいろいろなくが あったよ。" (I had a lot of things like big blocks and paint.)
- Bottom Right:** "4ねんせいは、 えいごのおんきょう をしつたよ。 からこい!!! いっからするのかな。" (4th graders finished their English lessons. Yay!!! Starting from now.)

幼児教育での学びを踏まえた小学校の授業改善







今までは、ガイド型の学校探検をしていました。園の保育を参観したり、カリキュラムを作成したりすることで、今年度は、「～したい」をつなぐことを意識しました。すると、子どもが見通しをもったり、次はこうしたいが生まれたりする学習になりました。ゆったりとした時間で、自分も無理なく進めることができました。

ゆったり進めているのですが、昨年度と進度が変わりません。合科関連的に進めたのがよかったのだと思います。

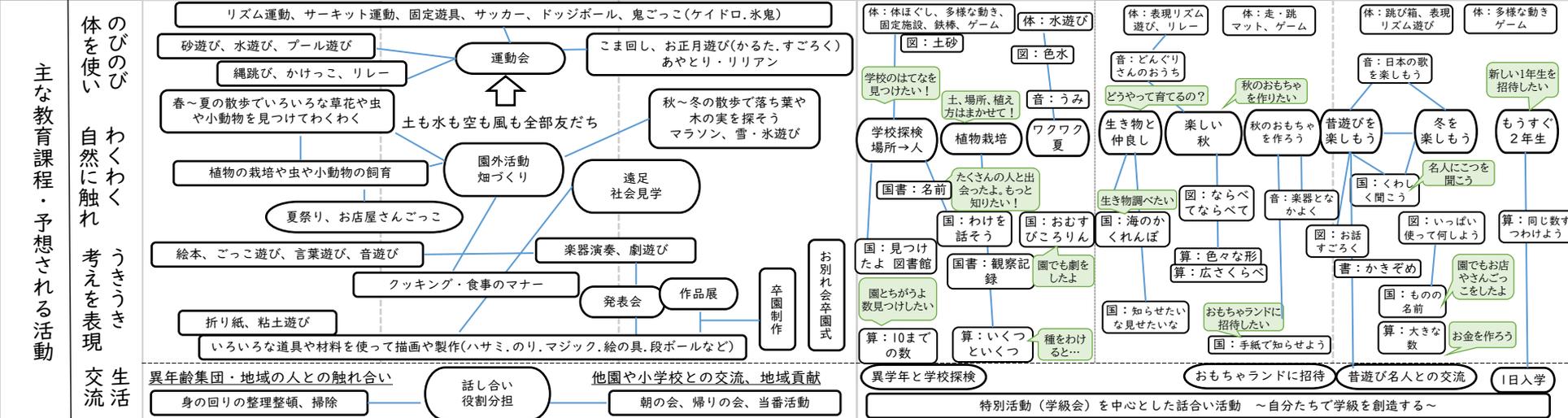


	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3

期待する子ども像 **好き！やってみたい！友だちと伝え合い、認め合い、探求する姿**

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	思考力の芽生え	身近な環境や友だちの刺激を受け、自ら関わって遊び、創意工夫から生まれる変化を楽しむ。	友だちと考えを出し合い、自分と違う考えを受け入れながら新しい考えを生み出そうとする。	園の経験を生かして、自分事として課題を捉え、考えたり試行錯誤したりする。	友だちと考えを共有したり、自分と異なる考えがあることに気付いたりしながら自分の考えをよりよいものにする。
	言葉での伝え合い	保育者や友だちと心を通わせるなかで、絵本や物語などに親しみながら豊かな言葉や表現を身に付ける。	経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しみようになる。	経験したことや考えたことなどを言葉で伝え合う。	言葉による伝え合いを楽しみ、話し合うことで自分たちの生活をよりよくしていこうとする。
	自然との関わり・生命尊重	自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現する。身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚える。			

大切にしたいこと	元環境単	・友だちに思いや考えを伝え共有する場づくり ・自らやってみたいと思う環境づくり ・自然に興味関心を持てる環境づくり	・考えや思いを出し合い、工夫や協力しながら遊び始める環境の設定 ・子どもが主体となり全体で話し合う場づくり	柔軟な教科書の取り扱い 身近なハテナから始まる単元	ゆったりとした時間設定 振り返りから次の課題へ 児童の思考を予想し環境・用具の準備
	わの先り関生	・安心して自分の思いを出せる関係づくり ・子どもの思いに寄り添い見守る	・友だちの考えを受け入れ高め合える関係 ・一人ひとりの集団の中での役割づくり	児童のハテナを引き出す 園の経験を踏まえる	次の課題を引き出す振り返りの工夫
	ドワキ	面白そう、やってみたい	どうして、調べよう、なるほど	こうすればどうなるのかな そういう考え方もあるのか	知ってる！ やってみよう！



「幼保小の架け橋プログラム事業」 3年目 ～普及・啓発～

普及・啓発

○成果物の発信

○研修の改善

- ・ 県総合教育センターと連携した研修
- ・ 生活科と幼児教育研修の合同開催
- ・ 園長と校長の合同研修

○幼児教育センター設置（令和6年～）

- ・ 関係機関との連携強化



幼保小架け橋ガイドブック



幼保小架け橋実践事例DVD



- 前年度から担当者がビジョンをもち計画的に進める
- 行政担当者は伴走者として共に汗をかく

カリキュラムを作成することがゴールではありません

連携から接続へ

園と小学校の先生方が、関わりをもつことができるような取組を行うことで、顔がわかる関係性を構築することができ、幼保小接続を推進する体制をつくることが可能となります。そのことが、保育・授業の質的改善を図るための実践的な幼保小接続につながります。以下に県内の取組を御紹介します。

保育・授業参観・研究会への参加

園内研究・校内研究に参加することで、幼児期に育まれた方が小学校教育にどのようにつながっているのか、園や小学校がどのような保育・授業の工夫をしているのかについて理解することができます。



保育参観では、園の先生が幼児の学びの姿や保育を解説して下さるので理解が深まりました。



知る

大人同士が
つながることは
知るための
第一歩

授業体験会・出前授業

小学校に5歳児を招待して交流する形ではなく、授業と一緒に受けるという「授業体験会」を実施したり、小学校の教員が園へ出向き、出前授業を実施したりしています。5歳児は小学校のイメージができ、小学校教員にとっても幼児理解につながります。



受容

互いを認め合い
取組の良さを取り入れる

やりたいを実現する環境構成

園では、子どもたちがやりたいと思った時に自由に材料や道具を手にとることができ、小学校でも、主体的な学びを支えていくために、やりたいときに、自分で始められる環境を整えています。



創意工夫したカリキュラムの作成

校区の実態を踏まえて、園と小学校が創意工夫したカリキュラムを作成することで、共通理解・共通実践につながります。

JRC発祥の地である守山小学校区は、JRC精神を基盤とした特色ある教育を実施しています。JRCの態度目標である「気づき、考え、実行する」をもとに、期待する子ども像を「気づき、考え、主体的に学ぶ」と設定し、校園の共通の取組を「心が動く・試行錯誤・伝え合う・振り返る」とし、保育・授業を展開しています。

園と小学校の共通の取組：振り返り

「協同」
心を合わせて
共に考える



園



小学校

「学びに向かう力推進事業」研究指定校園における取組のまとめに「架け橋期のカリキュラム」を掲載しております。… p.19 QRコードを参照

カリキュラムが詳細に作られていても、子ども同士の交流にとどまり、子どもの育ちをつなぐための幼保小接続になっていないということはありません。



保育者・教師の意識の変容

これまで、自分（保育者）の考えありきで保育を進めてきましたが、今年度は子どもにゆだねることを意識しました。そうすると、少人数やクラスでの話し合いの中で、子どもたちが自分の想像を超えてくる豊かな発想をし、遊びを自分たちで進めるんです。昨年度よりも、わくわくしながら子どもたちと遊んでいます。

園で培われた力をどのようにつなげていけばよいか意識するようになりました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に着目することで、授業が変わります。今年は、校内研究へ取組を広げていきたいと思っています。



園の先生



小学校の先生

保育・授業改善

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を一人ひとりの発達していく姿を捉える手掛かりとして、また、教師の関わりや環境の構成を改善・充実していくための視点として活用することで、学びや生活の質を高めていくことができます。

算数科「かたちあそび」



幼児期の経験を生かし、身の回りにあるものを使って活動することを通して、形の構成について考えました。「自立心」を念頭に置き、単元を工夫することで、目標に向かって、友だちと協働し、自分なりのやり方で課題を解決する姿が見られました。

日野町では、「命が宿ってから義務教育終了までの16年間」を「16年プロジェクト」として、子どもたち一人ひとりに「自立する力」と「ともに生きる力」を育むために、学校・園・家庭・地域・行政が一つになって取り組んでいます。

三登小学校と平松こども園は、校区の課題をもとに「伝え合う力」を視点とした保育・授業づくりを進めてきました。特に、乳幼児期で大切にしている愛着関係をベースに、発達段階に応じた教師の支援と環境の工夫を行っています。



1年生 子どもをつなぐ

協働

「協働」
期待する子ども像に
迫るために
力を合わせる

5歳児 共に考える

4歳児 橋渡し

3歳児 仲介

乳児期 安全・安心

※ 教師の支援